

口 語 英 語 の 研 究

Studies in Colloquial English

石 元 広 見

Hiromi ISHIMOTO

第 2 章 American English Intermediate Course に見る口語体のアメリカ英語

前の章においては Linguaphone Institute 出版の English Course を研究資料として、口語体のイギリス英語の特質のうち基本的なものを考察した。この章においては「リングアフォン米語中級コース」(American English Intermediate Course) を研究資料として、口語体のアメリカ英語の特質のいくつかを考察する。

American English Intermediate Course は Professor Clifford A. Hill (Associate Professor of Language and Education, Teachers College, Columbia University, New York, New York) 監修になるもので、2 巻に分けられ、60 の units からなり、多様な内容の 38 のテキストを基礎的な言語材料として、hearing, speaking, reading, writing の能力をバランスよく伸ばすためのさまざまな Drill や Exercise が用意されている。

これら 38 のテキストのうち 4 つはその文体の性質上口語英語とみなし難いので研究対象からはずす。対象とするテキストは対話、面接、手紙、投書、新聞記事、放送等さまざまであるが、種々な状況における対話形式のものが大部分である。

1. 関係代名詞

(1) 人を先行詞とする関係代名詞には *who* を用いる。

学校文法や英和辞典などでは「先行詞が人の場合の主格の関係代名詞は *who* または *that*」とするのが一般的である。しかし American English Intermediate Course (以下 A. E. I. Course と略) においては、先行詞が人の場合の主格の関係代名詞には常に *who* を用い、*that* を用いることはない。研究対象の 34 のテキストから関係代名詞の用例をすべて拾い出したが、人を先行詞とする場合には、次の例文が示すように、*that* が用いられている例は全くない。

- a. ... middle-class residents *who* have lived there for ...
- b. ... a good friend *who* lives next door.
- c. ... about the man's nephew *who* was hit by a taxi.
- d. ... for drivers *who* have recently been using it ...
- e. ... our local merchants *who* sponsor such programs.
- f. ... bicycle lovers *who* gave up riding bikes to work ...
- g. A person *who* prepares books for a publishing firm is ...
- h. All 10 of the women *who* began the program ...
- i. another group of 10 women *who* are to graduate ...

(2) 物・事を先行詞とする関係代名詞は *that*。

学校文法や英和辞典などでは「先行詞が物や事の場合、関係代名詞は *that* または *which* が用いられる」と説明されるが、A. E. I. Course では次の例のように、もっぱら *that* が用いられている。

- a. An action *that* brings about public disgrace is a scandal.
- b. A company *that* advertises on a certain program sponsors *that* program.
- c. The fixed amount of money *that* we pay every month for such services ...
- d. The heat wave *that* is taking its toll in drought, ...
- e. ... , scientists sometimes pick up little details *that* we miss.
- f. The same old programs we heard about in the fall and saw all winter and spring—those *that* were on every week ...

(3) 目的格の関係代名詞はほとんど省略される。

口語体は簡潔を求めるので、省略可能な箇所では最大限省略が行われる。関係代名詞の目的格は省略しても意味の不明を来たすことが少いので、省略される可能性が極めて大きい。A. E. I. Course においては、目的格の関係代名詞が省略されない前項(2)の c. のような例はまれである。以下はテキスト中の省略例。

次の例においては、省略が行われるため、関係代名詞 *who* (m) を用うべきか、*that* を用うべきか、*which* とすべきかの問題は生じない。

- a. I like the text () I'm using but ...
- b. Perhaps you'll have some questions () I can answer.
- c. I'm going to the store to take back the dress () I bought.
- d. Did you read about the women () the Air Force had put through ...?
- e. This may be the house () we want.
- f. ... complain about the sewage problem () we had last year.

注：() は省略を示す

「不定代名詞が先行詞の場合は関係代名詞 *that* が用いられる」という文法規則の適用も、省略が行われる次の例においては、必要がなくなる。

- a. The one () you're riding is just too heavy.
- b. If there's anything () you need, ...
- c. Guests can order anything () they like, ...
- d. ... more challenging than the one () I now hold.
- e. ... a job different from the one () I have now.

また、省略が行われる次の例においては、「先行詞が形容詞の最上級によって修飾される場合は *that* を用いる」という文法規則も不必要になる。

That was the worst job () he's ever done.

This is the longest résumé () I've ever read.

These are the ugliest dress () I've ever seen.

That's the coldest water () I've ever swum in.

This is the deepest well () I've ever seen.

That's the best meal () you've ever cooked for me.

更にまた、省略が行われる次の例においては、*on which*, *to which*, *about which*, *on to which* のような、ぎこちなさの感じられる collocation が避けられる。

- a. ... to confirm the plans () we decided *on* last week.
- b. This reminds me of a dinner () I went *to* once.
- c. The same old program () we heard *about* in the fall ...
- d. ... the thing () I'm really turning *on to* is the car.

(4) くだけた口語体では関係代名詞 *which* の出番がない。

研究対象とした A. E. I. Course の34のテキストの中で、関係代名詞 *which* が用いられているのは次に示す1例のみである。

With us in the studio is John Sheehey, principal of Ryder Senior High School *which*, as you know, is located in the heart of the inner city. (unit 7)

これはスタジオでアナウンサーがゲストを紹介するやや改った言葉である。この *which* の前にコンマを付していないが、固有名詞が先行詞であることから明らかなように、非制限用法の *which* であり、*that* で置き換えられないし省略もできない。非制限用法を示すコンマが用いられていないのは、直後にまたコンマがあるためで、前後が切れぎれになるぎこちなさを避けたのであろう。

ここで研究対象とした A. E. I. Course の34のテキストには *on which*, *by which*, *from which*, *at which* のように前置詞を先行させる用法も、..., *which* のような非制限用法も見受けられない。これらは口語体になじまないスタイルと見なすべきであろう。また、人を先行詞とする場合は *who* を用いる、物・事を先行詞とする場合は *that* を用いるというように1機能に対し1語を当てる方が、*who* でも *that* でもよい、*which* でも *that* でもよいといった具合に複数語を当て、用法を複雑化するよりも、簡潔を旨とする口語体にふさわしい傾向と言えよう。

(5) Time 誌の英語と比較

上に述べた *who* 及び *that* と先行詞との関係がアメリカ英語に共通して見られる傾向であるか、また、くだけた口語体には見られない非制限用法や前置詞を先行させる用法が、より改まった文体や文語体においてはどのように現われるかを調べてみよう。

以下に、1990年3月26日発行の米国週刊誌 *Time* に記載されている“Anything to Fear?”(pp. 8 ~14) と題する、東西ドイツの統合に関する時事問題の記事から、関係代名詞の用例をすべて拾い出してみた。

制限用法 *who* ... 2例

非制限用法 , *who* ... 2例

that ... 10例 (すべて物・事を先行詞)

制限用法 *which* ... 1例

非制限用法 , *which* ... 4例

from which, *after which* ... 各1例

目的格の関係代名詞省略... 1例

Time 誌においても、A. E. I. Course におけると同様に、*who* は人を先行詞とし、*that* は物・事を先行とする分業の傾向がはっきりと読み取れる。一方、*who* と *which* の非制限用法が計6例、前置詞を先行させる用例が2つ見受けられ、関係代名詞の省略が1例しか見当たらず、*Time* 誌が A. E. I. Course のテキストよりもはるかに改まった文体で書かれていることを物語っていると言えよう。

(6) The New Yorker 誌の英語と比較

更に、1990年3月12日発行の米国週刊誌 The New Yorker の“the Constitutionalist” (pp. 45~70) と題する Supreme Court Justice William Brennan 氏の profile を紹介する記事から関係代名詞の97の用例をすべて拾い出してみた。(少々拾い落としがあるかもしれない。)

制限用法 who ... 31例

非制限用法 , who ... 11例

whose/whom/of whom ... 各1例

制限用法 that ... 32例 (すべて物・事を先行詞とする)

制限用法 which ... 9例

非制限用法 , which ... 7例

in which ... 2例

for which/by which ... 各1例

The New Yorker においても、who が人を先行詞とし that が物・事を先行詞とする分業化の傾向は、前出の2種類の資料に見られると同様である。また、この記事には法律用語がふんだんに用いられ、米国連邦最高裁判所裁判官の人物素描が、改まった格調の高い文体でなされている。18例の非制限用法及び7例の前置詞を先行させる用例に、口語体とは異なったこの文体の特徴が顕著に表われている。なお、関係代名詞の省略は9例見受けられるが、そのうち7例は Brennan 氏が語った言葉を直接話法で記したものであり、目的格の関係代名詞を省略する口語体の傾向が表われていると見ることができる。

- a. "... What got me interested in people's rights and liberties was the kind of family and the kind of neighborhood () I was brought up in ..." (p. 46)
- b. "... Many of the cases () she dealt with did have to turn on the application of the Bill of Rights ..." (p. 54)
- c. "... I have done it by the drafts () I circulated among my colleagues ..." (p. 59)
- d. "... The position () I finally took took a long time to come around to ..." (p. 62)
- e. Brennan—a devout Catholic—still believes what he said in a speech () he made before coming on the Court ... (p. 62)
- f. "That's the only instance of anything like that () I've had in all my years here." (p. 62)
- g. In the same speech he said something () I have heard him say in his chambers ... (p. 68)
- h. "... There's nothing I can think of that would have given me anything like the satisfaction () I've had from this." (p. 70)

2. 接続詞 that は文体の indicator

「省略」は口語体を特徴付ける最も顕著な特質の一つである。特に接続詞 that の省略の有無によって文体を判別することができると言っても過言でない。より口語的な文体ほど接続詞 that は省略され、口語的でない改まった文語的な文体ほど that の省略が少なくなる。

研究資料 A. E. I. Course には18の会話体のテキストが含まれており、それには conversation between friends, business talk, job interview, telephone conversation, discussion between a professor and her student など friendly で informal なものから polite で formal なものまでさまざまな内容のものが含まれている。これら18種類のテキストの中に、文法的には接続詞 that が用いられ得る構文が40あまりあり、そのうち50%強は that が省略されており、50%弱は that が省略されていない。

That の省略が少ないのは telephone conversation, interview, academic discussion 等である。

これらの会話 (Units 17, 20, 29, 38, 41) において文法的に接続詞 *that* を要求する構文が18あり、そのうち15例 (83%) には省略が見られず、*that* の省略が見られるのはわずかに次の3例 (17%) にすぎない。

- a. But do you think () you're ready for such a big change?
- b. ... but I think () you should keep on at your present job ...
- c. ... and I hope () you'll apply to us again ...

逆に、友人同志のうちとけた会話 (Units 5, 23, 35, 59) においては、省略可能な接続詞 *that* は、次に例示するように100%省略されている。

- a. But I think () it was that ...
- b. I think () his car knocked over ...
- c. It's too bad () he has to ...
- d. I'm afraid () going up and down these hills is ...
- e. You know () I'm not used to ...
- f. ... but don't think () you're getting off ...
- g. Well, you know () she flunked out of school ...
- h. They know () I'm the bookworm in ...
- i. I'm glad () I won't be around ...
- j. I just hope () we don't use up ...
- k. I guess () they were so busy with ... () they weren't able ...
- l. I wish () you were right.

なかでも、*I think* () ..., *You know* () ... などにおける *that* の省略は *idiom* 化するほど頻繁に行われている。なお、units 11, 14, 32なども友人同志や夫婦間のくだけた会話であるが、これらには *that* 節を必要とする構文さえも含まれていない。接続詞 *that* は文を拡張する働きを持つ機能語であり、文を短縮しようとする力が働くくだけた口語体とはなじまない面があると考えることができよう。

一方、前出の *Time* 誌の “Anything to Fear?” の記書 (pp. 8~14) においては、接続詞 *that* が省略されずに用いられている例が36例、省略の見られるのはわずか2例となっており、95%対5%という圧倒的な比率で使用例が見られる。省略の見られるのは次の2文である。

Even in the Soviet Union, where new estimates say () 26 million died in World War II, surveys indicate that a majority does not worry about a single Germany.

The Soviet government is profoundly ambivalent about a unification () it would much rather delay if not prevent altogether.

更に、前出の *The New Yorker* の記事 “The Constitutionalist” (pp. 45~70) には接続詞 *that* を要求し得る構文が168あるが、そのうち *that* が省略されているのは次の2例のみである。

Brennan believed () he had set a reasonable course by which the Court could draw a line between obscenity and speech that ...

Glimore insisted () he wanted to die.

少々の見落としがあるかも知れないが、この文体においては接続詞 *that* のほぼ99%は省略されていないと言える。この文体においては、次のような動詞の目的語となる節を導く *that* も省略されていない。

- a. He *believes* that ...
- b. ... my father *felt* that ...

- c. Daniel Crystal, ..., *says* that ...
- d. ... young Brennan *told* his father that ...
- e. Sherman Milton *announced* that ...
- f. I *thought* that ...
- g. Brennan *replied* that ...
- h. I *expect* that ...
- i. Brennan *said* that ...
- j. ... the officer didn't *know* that ...

すなわち、くだけた口語体においては極めて頻繁に省略される *that* が、改まった文語的な文体においては省略されることが希である。接続詞 *that* は文体を示す indicator と見なすことができる。

3. 主語の省略

前述した関係詞の省略及び接続詞 *that* の省略と類似した「主語の省略」が、日常会話の慣用的な言い回しにしばしば見受けられる。I thank you が日常的には Thank you という形で用いられ、Thank you を頻繁に用いなければならない職場においては Kyou という形で用いられるように、口語英語は可能な限り表現を簡潔にし、労力の節減 (economy of effort) を計る。口語体においては、言語は情報・意志・感情を伝える道具と見なされる。美辞麗句、大言壮語、反復冗長等の表現形式は口語英語にはなじまない。

(1) 主語のみの省略

Just a minute— (I) Can't hear you.

(I) Wish I could go home—college is getting me down.

(It) Sounds good.

(I) Guess it'll have to be hamburger or chicken.

(I) Can't wait to show it to you and Ed.

(It) Looks like you got up bright and early this morning.

(2) 主語/There + (助)動詞の省略

(That's) Right.

(I'll) See you on Friday then.

Beat vigorously with a wire whisk until (it becomes) rich and thick.

Whip the cream until (it becomes) stiff.

Does he often outline his arguments when (he is) speaking?

(There is) Water all over the place.

(It is) No wonder this thing isn't working right.

省略される主語には I, it が多く、動詞には be が多い。なお前章でも触れたが、口語体における感嘆文は、次に例示するような主語+動詞の部分が省略された構造のものが圧倒的に多い。

What an awful day!

What a great idea!

What great ideas!

What a rip-off!

What a terrible morning!

What a wonderful festival!

Oh, how hilarious!

しかし感嘆の対象を明示することが重要な場合には省略は起こらない。

How cute you are!

How intelligent Joe is!

4. GO TO DO → GO AND DO → GO DO

Go and do は go to do のくだけた形で、イギリス英語における確立された口語体であると言われる。Go do は go to do の to が省略された形とも、go and do の and が省略された形とも説明されるが、アメリカ口語特有の標準語法と見なされているようである。A. E. I. Course には go do の型の次の2例が見受けられる。

Let's go get a beer!

I just had to go see it.

「アメリカ英語の語法」(小西友七)には次のような例文が引用されている。

I have to go study now.

You just go blow. (勝手にしやがれ)

Let's go give him a try.

Oh, let it go hang. (放っておけ)

Go chase the ball.

Go get in the room.

Come see us sometimes.

Try ask her questions ...

余談ながら、犬に向かって言う “Go fetch.” は、fetch 自体が go for and bring back someone or something を意味するので go が繰り返されることになる。

5. Why don't you ...?

勧誘や助言を与える時の言い回しには次のような型がある：

a. I ('d) advise you to ...

I'd advise you to see less of her.

b. If I were you, I'd ...

If I were you, I would help him. If I were you, I should get that car serviced.

c. Why don't you ...?

Why don't you give her some flowers?

d. Why not ...?

Why not give her some flowers?

これらのうち a は最も改まった表現であり、b は標準英語における慣用的な表現と見なされている。d は c の短縮形であり、同じ意味を表わし、両方とも一般的に用いられる口語体である。Why don't you ...? は疑問文の形をしているが、いわゆる修辭疑問文と呼ばれるもので、Because で始まる応答文を期待する疑問文ではない。A. E. I. Course には次の様な用例が見られる。

I'll bring them in a minute. Meanwhile, why don't you look at the menu?

..., why don't we take a long lunch and go to my health club one day next week?

Why don't you call home from your room, sir?

Why don't you call me next week?
 Why don't you try your hand at catering?
 Why don't you buy him a new tape measure?
 Why don't you give me a hand with this sofa?

6. go to the East → go East

言語使用において「労力節減」の意図が顕著に見られる現象の一つに Conversion (品詞の転換) がある。このことは特に口語体において著しい。Conversion とは語形を変えることなく語の機能、つまり品詞、を変えることで、例えば名詞を動詞として用いたり、形容詞を名詞として使ったりすることである。A. E. I. Course において目につく名詞から副詞への転換例の一つは次の East の用法である。

When he goes *East* he has a chance to pay a visit to his mother.
 Aren't you coming back *East* soon?
 You have a great office here—much larger than most of those I saw back *East*.
 Maybe they will finally come back *East*.

これらの例文においては、アメリカ合衆国東部地方、特に Maryland 以北の地方を指す the East が冠詞を伴わずに、East の形で、to the East, in the East に相当する意味を表わす副詞として用いられている。固有名詞、固有形容詞に倣って、固有副詞とでも呼び得る現象である。Come back to the East から come back East への転換の容易さは、in the east, to the east, toward the east, on the east 等に対応した go east, fly east, sail east, lie east and west, locate east of ... などのような用例の豊富さを見れば理解できる。

(1) 名詞 east, etc.

The village is located 50 miles *to the east* of the city.
 The wind blows *from the east*.
 The sun set slowly *in the west*.
 The historical capital was *in the west* of Japan.
 Mongolia is *to the west* of Japan.

(2) 副詞 east, etc.

Mt. Fuji lies *west* of Tokyo.
 The ship is sailing *south*.
 The plane flew *west*.
 We followed the road *east*.
 The village is 10 miles *north* of the city.
 The wind is blowing *west*.
 The island lies *east and west*.

副詞と共通の意味領域を持つ名詞は容易に副詞に転換され得る。方角を表わす east, west 等がその 1 例である。同様のことが時を表わす名詞についても言える。以下は特に米語において見受けられる傾向である。

He'll come *Monday*. (= on Monday)
 The cleaning woman always comes *Friday*.
 I don't work *Sundays*. (= on Sundays)
Mornings he used to go jogging.

He worked *days* and played *evenings*.

I work *nights* and sleep *days*.

He returns home *weekends*.

He works *weekdays*.

これらの語尾の -s は, sometimes, always などにならってつけた副詞語尾であると説明される。Stay indoors, live outdoors などにおける語尾の s も同様である。また, 慣用句 go places (方々へ行く) の places も Sundays, weekends 等に類する副詞用法と見ることができよう。

7. Used+to 不定詞の否定形と疑問形

過去のかかなりの期間にわたって常習的な動作・状態を表わし, 特に過去と現在を対照させる used+to 不定詞は, その否定形と疑問形において, 用法がさまざまである。

肯定: He used to go to school by bus.

否定: He didn't use to drink while young.

He didn't used to drink while young.

He used not (usedn't) to drink while young.

疑問: Used she to do that?

Did she use to do that?

Did she used to do that?

What used he to say?

What did he use to say?

You used to live in Paris, usedn't you?

You used to live in Paris, didn't you?

She used not to do that, used she?

She didn't use to do that, did she?

この複雑さは, used を助動詞に用いるか, 動詞的に用いるかによって生じるのだが, A. E. I. Course においては次のように動詞 use の過去形として扱っている。

Harry used to play golf every Sunday.

Did you use to study at night?

Harry didn't use to like travel.

I never used to like watermelon, but I love it now.

Used+to 不定詞の否定形・疑問形は, かつては He usedn't to smoke. /Used he to smoke? のように用いるのが正しいとされていたようであるが, 現代口語では, はじめ米国で, 現在では英国でも, A. E. I. Course の用例と同じ He didn't use to smoke. /Did he use to smoke? のような用法が普及しているようである。

8. Help+不定詞

一般に, help+目的語+不定詞の場合も, help+不定詞の場合も, 不定詞は原形不定詞でも to 不定詞でもよいとされ, 例文は次のように示される。

Help me (to) lift it.

He helped a lady (to) get out of the car.

I helped my mother (to) wash up.

Go and help (to) wash up.

一方, A. E. I. Course における例文では, 次のように常に原形不定詞を伴う。

Help prove that cycling is a cheap, clean, and healthy alternative to driving.

I'm also planning to try my hand at modeling though, to *help pay* my own way.

Help の後に原形不定詞を用いるのはおもにアメリカ英語の口語体とされて来たが, 現在ではイギリス英語においても普通のものである。ただし, help が受身で用いられる時は to 不定詞が一般的である。

She was helped to *find* it.

また, 主語が物の場合は to を省略しないのが普通のようなのだが, 省略する例も見受けられる。

This book helped me to see the truth.

Magazine reading helps us (to) pass away the time.

9. 指示副詞 this/that

口語体においては, this や that が程度や量を示す形容詞・副詞を限定する指示副詞として用いられることがある。A. E. I. Course には次の用例がある。

O. K., sissy, but don't think you're getting off *that* easy.

また, 辞典などに見られる類例は次の通り。

It was *this* big.

I've never been *this* rich before.

I know *this* much.

I have never seen *this* many lions at one time.

I didn't expect to have to wait *this* long.

She had never been handled *this* roughly in her life.

I can't go *that* far.

He couldn't get *that* drunk in two hours.

I've done only *that* much.

Does he want to have *that* many children?

この this/that が指示する具体的な意味内容は, 文脈やその場の状況から容易に理解できるものであり, 言葉による説明を要しない。

10. 万能動詞 DO

品詞を転換することなしに, 同一の語にさまざまな意味を表現する能力を持たせるのも, 口語体に見られる特徴的な「労力節減」の方法である。A. E. I. Course には次のような本動詞 do の用例が見られる。

a. Now, about the dinner ... Sue is going to make the soup, and Jessica will *do* the main course. You asked me for the recipe for chocolate pie, so that you could *do* the dessert.

b. Do you realize that speed limit is 55 miles per hour? You were *doing* close to 65. What's the rush?

例文 a の do は make, prepare と同義であり, b の doing は traveling (per hour) と同義である。

以下に類例を辞書等から引用する。

Go and *do* your hair. (make tidy)

Tell the housemaid to *do* the bedrooms. (clean, sweep)

Have you *done* your teeth? (brushed)

I will *do* you next, sir. (attend to)

I will *do* the dishes. (wash)

They *did* Greece in three weeks. (traveled through)

Mother will *do* the flowers. (arrange)

I can't *do* this sum. (solve)

これらの *do* の多くは「処理する (deal with)」の意味で使われているので、*do* の目的語に処理すべき用件を置けば、数限りなく類例を作ることが可能である。

11. Mr. Ellis' wife's brother

Kruisinga が (Handbook, §825で) double genitive と呼ぶ 's を重ねるこの形式は、一般に不格好で不体裁と見なされているが、血縁関係の表現には用いられることが多い。A. E. I. Course には次の用例がある。

Mr. Ellis' wife's brother owns his own company.

My wife's brother's boss is coming in to talk.

Janie's dog's name is Snoopy.

このような double genitive は普通話し言葉にのみ現われ、書き言葉に現われるのはまれである。

12. Kind of

Somewhat, rather, more or less, 時には almost の意味で、形容詞や動詞の前に副詞的に用いられる kind of は、くだけた口語体の慣用句で、アメリカ合衆国のすべての言語層で広く用いられているようである。A. E. I. Course には次の用例がある。

I'd kind of like to look at the kitchen next.

辞書や文法書からの引用：

I'm kind of hungry.

You look kind of tired.

It's kind of good.

It was kind of cold outside.

I feel kind of sorry about that.

I kind of feel that way.

I kind of like him.

She kind of wasn't listening.

I kind of expected it.

Kind of は of 音における reduction に伴って、kind o', kind a', kinder などと書かれたりすることがある。これは文学作品などで、登場人物がある特定の言語層に属していることを読者に連想させるために用いる手法で、horse を hoss, says を sez, can を ken, my を mah と書くのと同様の効果をねらうものである。Gleason (Introduction p. 406) はこの手法を Eye dialect (視覚方言) と呼ぶ。ちなみに、kind of と同義の sort of も、sort o', sort a', sorta, sorter などのように書かれることがある。

13. Why is it that ...? → How come?

Alice ate a mushroom. の Alice を強調したければ It was Alice that (who) ate a mushroom. とし、a mushroom を強調したければ It was a mushroom that Alice ate. とする。A. E. I. Course に

は、少し改まった newspaper column からの次のような用例がある。

Why is it that we, the viewers, have to be tortured with such punishment?

これは Why do we, the viewers, have to be tortured with such punishment? の why を強調するための cleft sentence である。日本の学校文法では、強調を目的とする構文なので「強調構文」と呼ぶのが一般的であるが、Jespersen はその特徴的な構文を Cleft sentence (分裂文) と名付けた。以下、類例を若干引用する。

What is it that you're talking of?

What is it that nobody complains about?

Who was it who interviewed you?

Why is it that our heart contracts with pain?

How is it that you can never get here on time?

Cleft sentence では、焦点 (focus) の置かれる語は It is (was) と that の間に来るが、疑問文では疑問詞が文頭に出、it と is が入れ換わる。なお、Why is it that ...? と How is it that ...? は口語体では同義となることが多い。以下に How で始まる関連構文を列挙する。

- a. How is it that you are here?
- b. How comes it that you quarreled?
- c. How does it come that he knows it before me?
- d. How come you said that?
- e. How came you to hear of it?
- f. How come you to say that?
- g. How come?

これらのうち b. の How comes と e. の How came は古形とされる。一方 How come は口語表現と見なされる。Why に関してはこれほど多様な文型は見当らない。Why does it come ...? は可能だが、Why come (s) と結びつかないためであろう。

つづく

研究資料

American English Intermediate Course. 3rd ed.; London: Linguaphone Institute Limited, 1978

参考書目

a. Books

Koine, Yoshio., chief edit. *Kenkyusha's English-Japanese Dictionary*. Tokyo: Kenkyusha, 1980

Konishi, Tomoshichi. *Aspects of American English*. Tokyo: Kenkyusha, 1981

Otsuka, Takanobu., edit. *Sanseido's Dictionary of English Grammar*. Tokyo: Sanseido, 1970

Otsuka, Takanobu and T. Konishi. *Sanseido's Dictionary of Current English Usage*. Tokyo: Sanseido, 1973

Yasui, Minoru., edit. *The Taishukan Explanatory Dictionary of Contemporary English Grammar*. Tokyo: Taishukan, 1987

Other English-Japanese Dictionaries

Kenkyusha's New College English-Japanese Dictionary

Kenkyusha's Union English-Japanese Dictionary

Obunsha's Comprehensive English-Japanese Dictionary

Shogakukan Progressive English-Japanese Dictionary

b. Periodicals

"Anything to Fear?", *Time*, No. 13 (March 26, 1990) 8-14

"The Constitutionalist", *The New Yorker*, (March 12, 1990) 45-70